

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 8 月 7 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320151

研究課題名(和文) 中近世ロシア諸法典の歴史的展開に関する研究

研究課題名(英文) Study on The Historical Development of Codes in Russian Pre-modern History

研究代表者

豊川 浩一 (TOYOKAWA, Kocichi)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：30172208

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円、(間接経費) 3,540,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間前半では、近世ロシア国家最初の全国法典である『1649年会議法典』の翻訳・解釈を行い、そこから得られた知見を基に前近代ロシア社会の問題を浮き彫りにした。研究期間後半では、ロマノフ朝成立に至る過程を調べる上で欠かせない『聖三位一体修道院の包囲についてアヴラーミイ・パーリツィンの物語』の翻訳・解釈を、16・17世紀ロシアの社会や法制度への影響についても研究することを視野に入れながら行った。なお、2013年はロマノフ朝成立400周年に当たっており、ロシア国内では多くの研究成果が現れている。われわれの研究はまさにそうした動きの延長線上にあるといえる。

研究成果の概要(英文)： The aim of our study is to translate and explicate Sobornoe Ulozhenie of 1649 or the Law Code of 1649 and "The Tale of Avraamy Paritsyn about the siege of the Trinity St.Sergius monastery". Sobornoe Ulozhenie consolidated the Russian slaves and peasants into a new serf class and established the social order at the beginning of 17th century. "The Tale of Avraamy Paritsyn" described the siege of his monastery between 1608 and 1610 by Polish forces, the liberation of Moscow, and the process of electing Mikhail Fedorovich Romanov as tsar, the end of the conflict with Poles and so on. Both of two documents are important and necessary to understand the Russian pre-modern history around the Smuta or the Time of Troubles before the rise of the Romanov dynasty. We already published the results of our research work in bulletin.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：1649年会議法典 アヴラーミイ・パーリツィンの物語 前近代ロシア社会 農奴制 動乱時代

1、研究開始当初の背景

『会議法典』の研究の準備作業として、すでに研究代表者・分担者たちはすでに 2002 年より毎月 1 回のペースで東京を中心に開かれている研究会で翻訳・検討作業を着実に続けてきた。成果の一部は中澤敦夫・吉田俊則「『1649 年会議法典』翻訳と注釈(1~5)」『富山大学人文学部紀要』43~50 号、2005~2009 年として公刊してきた。以上を背景に本研究を開始したため、研究開始当初、準備も整っており、困難なくほぼ順調に研究を遂行することができた。

2、研究の目的

(1) 近世ロシアの体系的法文典である『1649 年会議法典』(以下『会議法典』と略記) 研究を活動の中心に据えながら、同時に、この法典が成立するまでの 11~17 世紀にいたるロシアの諸法典・法律文書の歴史的展開について、法制史のみならず、政治、経済、社会、宗教、民俗の側面から当時の社会状況を明らかにすることを目的とした。先行の諸法典ならびに関連史料に関する研究を視野に入れることによって、中近世ロシア成文法の集大成としての『会議法典』ならびに隣接する近世諸史料の歴史的な意義を多角的に明らかにすることを目指した。

(2) 次いで、『会議法典』から得られた知見を基にして前近代ロシア社会の問題を浮き彫りにすることを目指した。そのために、『聖三位一体修道院の包囲についてアヴラーミイ・パーリツィンの物語』(以下『物語』と略記) の解釈・翻訳を通して、この『物語』が書かれたロマノフ朝成立前夜の社会状況の一端を明らかにすることを目指した。

3、研究の方法

(1) 月 1 回の定例会で、研究代表者・分担者・協力者による合同での史料の翻訳・解釈を行った。一方で研究分担者・協力者は、各自史料研究を進めた。

(2) 史料研究を進めるにあたり、必要な史資料の購入・複写により資料の収集を図った。

(3) 史料収集のため、またロシアにおける研究成果をいち早く本研究に反映するため、研究代表者・分担者をロシアに派遣した。

(4) 研究の成果を総合するために合宿を行った。

4、研究成果

(1) 『会議法典』についての翻訳と解釈については中澤敦夫・吉田俊則「1649 年『会議法典』翻訳と注釈(7・8)」『人文学部紀要』(富山大学人文学部) 54・56 号、2011・2012 年として刊行した。

(2) 『物語』についての翻訳・解釈・そのほかの成果については中近世ロシア研究会編『アヴラーミイ・パーリツィンの『三位一体セルギイ修道院包囲についての物語』翻訳と資料』および同会編『中近世ロシア研究論文集』2014 年として刊行した。

(3) 広く歴史学界にその成果を知らしめるべく、第 64 回西洋史学会大会(於立教大学)でシンポジウムを組織し報告した。

(4) 適宜、ウェブサイト上に成果を公開した。

5、主な発表論文

[雑誌論文](計 20 件)

豊川浩一、啓蒙の世紀におけるロシアの「発見」、中近世ロシア研究会編・中近世ロシア研究論文集、査読無、2014 年、102

豊川浩一、プガチョーフ叛乱軍によるオレンブルク包囲（ロシア語）、歴史的文学的コンテクストにおけるプーシキンの中編小説『大尉の娘』、査読有、2012年、58 - 64

豊川浩一、近世ロシアの民間習俗をめぐる国家・教会・社会、駿台史学、査読有、147号、2013年、127 - 167

豊川浩一、「植民国家」ロシアにおけるカザークの位置、歴史学研究、査読有、881号、2011年、34 - 48

豊川浩一、Russia in the Age of Enlightenment and K.Kirilov's Colonial Policy、Japanese Slavic and East European Studies、査読有、30号、2010年、45 - 58

浅野明、過去への回帰 歴史に問いかけるといふこと、高橋和・中村唯史・山崎彰編『映像の中の冷戦後世界』、査読無、2013年、27 - 45。

兔内勇津流、モスクワ府主教プラトン・レフシン『ロシア教会史』（1805年）の動乱（スムータ）時代叙述に見る歴史観について、中近世研究会編・中近世ロシア研究論文集、査読無、2014年、118 - 138

中澤敦夫、ニコライ・カラムジンの歴史叙述における「広い心」について（ロシア語）、Acta Slavica Iaponica、査読有、34号、2014年、1 - 5

中澤敦夫、17世紀ソロヴェツキー修道院蔵の伝説的『スウェーデン王マグヌスの写本』（ロシア語）、古ルーシ図書センター、査読有、54号、2010年、309 - 313

中澤敦夫、吉田俊則、『1649年会議法典』翻訳と注釈（8）、人文学部紀要（富山大学人文学部）、査読無、56号、2012年、

265 - 307

中澤敦夫、吉田俊則、『1649年会議法典』翻訳と注釈（7）、人文学部紀要（富山大学人文学部）、査読無、54号、2011年、219 - 262

丸山由紀子、パーホーミイ・ロゴフェートにおける双数形用法の特徴について（ロシア語）、古ロシア・西欧中世史学者の諸問題、査読有、45巻、2011年、82 - 93

丸山由紀子、15世紀初頭のロシア聖人伝における双数形分布に関する問題に寄せて（ロシア語）、学問の光の中におけるロシア語、査読有、21巻、2011年、162 - 188

三浦清美、中世ロシアにおけるキリスト教と異教の融合過程の研究、スラヴ研究、査読有、60号、2013年、91 - 122

三浦清美、終末論としてのローマ、中近世ヨーロッパの宗教と政治、査読有、2014年

三浦清美、中世ロシア文学図書館（ ）アボクリファ、電気通信大学紀要、査読有、25巻（通巻41号）、2013年、61 - 71

三浦清美、ロモノーソフの神、デルジャーヴィンの神、日本18世紀ロシア研究会年報、査読無、2012年、1 - 17

三浦清美、中世ロシア文学図書館（ ）タートルのくびき、電気通信大学紀要、査読有、22巻（通巻38号）、2010年、145 - 165

宮野裕、14世紀モスクワ社会における公の裁判権と教会裁判権、中近世研究会編・中近世ロシア研究論文集、査読無、2014年、57 - 73

宮野裕、中世ロシアのウラジーミルの教会規定、岐阜聖徳学園大学紀要、査読無、51巻、2012年、83 - 103

〔学会発表〕(計7件)

豊川浩一、ロシアと日本におけるプガチョーフ叛乱研究(ロシア語)、国際学術会議《プーシキン：プガチョーフ叛乱についての最初の研究者(叛乱勃発240周年、プーシキンのオレンブルク地方訪問180周年)》(ロシア語)、2013年6月6日、オレンブルク農業大学(ロシア、オレンブルク)

豊川浩一、18世紀ロシアにおける国家と民間習俗の相克、日本18世紀ロシア研究会、2011年9月23日、明治大学

中澤敦夫、ニコライ・カラムジンの歴史叙述における「広い心」について(ロシア語)、国際学術会議《2012 俄羅斯語言學、文學国際論壇》(「ロシア言語学とロシア文学 2012」)、2012年12月7日、淡江大学俄国語文學系(台北市)

中澤敦夫、ロシアと日本の造形芸術における聖性 - 比較研究、国際学術会議《スラヴ・ロシア聖者伝研究の当面の問題》(ロシア語)、2011年12月2日、ロシア文学研究所(ロシア、サンクト・ペテルブルク)

丸山由紀子、古ロシア時代の聖人伝テキストにおける双数形の使用について(ロシア語)、Joint International Sumpojium «Grammaticalization and Lexicalization in Slavic Languages」、2011年11月11日、北海道大学スラブ研究センター

丸山由紀子、パーホーミイ・ロゴフェートにおける双数形用法の特徴について

(ロシア語)、国際学術会議《第5回国際学術会議・古ルーシ研究における総合的研究》、2011年9月29日、ロシア科学アカデミー(ロシア、モスクワ)

丸山由紀子、モスクワ時代初期の聖者伝における双数形の用法、日本ロシア文学会第60回研究発表会、2010年11月7日、熊本学園大学

〔図書〕(計2件)

中澤敦夫、東洋書店、暮らしの中のロシア・アイコン、2012年、64

中澤敦夫、群像社、ロシア古文鑑賞ハンドブック、2011年、440

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://members3.jcom.home.ne.jp/russland/index.html>

6、研究組織

(1) 研究代表者

豊川浩一(TOYOKAWA, Koichi)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：3268220120

(2) 研究分担者

栗生澤猛夫(KUYUUZAWA, Takeo)

北海道大学、名誉教授、

研究者番号：40111190

宮野裕(MIYANO, Yutaka)

岐阜聖徳大学・教育学部・准教授

研究者番号：50312327

田邊三千廣(TANABE, Michihiro)

星城大学・リハビリテーション学部・準

教授

研究者番号：70259357

井内敏夫 (INOUCHI, Toshio)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：60120903

三浦清美 (MIURA, Kiyohru)

電気通信大学・情報理工学部・教授

研究者番号：20272750

兎内勇津流 (TONAI, Yuzuru)

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・准教授

研究者番号：50271672

吉田俊則 (YOSHIDA, Toshinori)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：40240296

中澤敦夫 (NAKAZAWA, Atsuo)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：90242388

坂内徳明 (BANNAI, Tokuaki)

一橋大学・大学院言語社会研究科・教授

研究者番号：00126369

浅野明 (ASANO, Akira)

山形大学・人文学部・教授

研究者番号：90133909

丸山由紀子 (MRUYAMA, Yukiko)

東京外国語大学・外国語学部・研究員

研究者番号：20401432